

# 尖閣国有化「容認できない」 詰め寄る胡氏

## 2012年APECの控室 野田氏に

日本政府が沖縄県・尖閣諸島を国有化してから11日で5年。購入費の支出を閣議決定する2日前、当時の中国國家主席、胡錦濤氏から「国有化は到底、容認できない」と厳しく詰め寄られたことを、当時の首相、野田佳彦・民進党衆院議員が朝日新聞のインタビューで明らかにした。少数で秘密裏に進めた交渉を「ベストシナリオではなかったが、決断せざるを得なかった」と振り返った。

野田首相(当時)と中国の胡錦濤国家主席(当時)の様子を伝えるAPEC会場で立ち話した野田首相(当時)と中国の胡錦濤国家主席(当時)の様子を伝えるテレビ映像=2012年9月

2012年9月9日、ロシア・ウラジオストクでのアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議。昼食を取りながら会議をする野田首相(当時)と中国の胡錦濤国家主席(当時)の様子を伝えるテレビ映像=2012年9月

地震へのお見舞いの言葉を伝え、「いつでも支援する」と述べた。だが胡氏はそれには答えず、開口一番、尖閣国有化を批判したという。「目も合わせず、能面のような表情だった。お見舞いへの返

す言葉がこれかと思ったが、尖閣は我が国固有の領土。所有権を国に移転させるだけのことだと答えた。野田氏によると、尖閣国有化は小泉政権時代から、官房長官間の引き継ぎ事項だった。事態が動いた発端

は12年4月、当時の東京都知事、石原慎太郎氏が「東京都が尖閣を購入する」と突如表明したことだった。

「衝撃的だった」。野田氏は「平穩かつ安定的な維持管理のためには国が管理したほうが良い」と考え、翌5月に当時の首相補佐

官、長島昭久氏らに国有化の検討を指示した。

野田氏は8月19日、首相公邸に石原氏を招き約1時間半話し合った。野田氏によると、ヨット愛好家知られる石原氏は「尖閣周辺では良い魚がとれるので船だまりがあった方がいい

## 野田氏「決断せねばトラブる」

中国には外交ルートで方針を伝え、「中国側は(都か國かの)二択なら国有化は仕方ないと判断していた」との印象だったという。それでも胡氏が猛反発した背景に、中国国内の権力闘争があったと野田氏はみる。胡体制から習近平

体制へと変わる過渡期で内政は混沌としていたからだ。「内政の変化が(国有化への)対応の変化として表れた。新しいトップになつてから国有化し関係悪化するより、今のトップの間で判断したほうが良いと思

い。嵐が来たら停泊できる場所があれば漁民も喜ぶ」と話したという。

野田氏は「中国漁船の乗組員が上陸したらどうするか」と述べたが、石原氏は人を常駐させる計画や、反発した中国との軍事衝突に至った場合の対応まで披瀝したという。「都が購入すれば形状変更になるという懸念が確信になった。絶対に国有化をしなければいけないと思った」

対中関係の悪化は懸念していたのか。そう尋ねると野田氏はこう応じた。「決断しなかった場合、大きなトラブルになりかねない。セカンドワーストで決断せざるを得なかった」(松井聖美)

デジタル版にインタビュー動画